

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770103758
法人名	社会福祉法人 大阪福祉会
事業所名	ハピネス金岡グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 9 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 20 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2770103758
法人名	社会福祉法人 大阪福祉会
事業所名	ハピネス金岡グループホーム
所在地	大阪府堺市北区金岡町2725 (電話)072-251-0222

評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号 親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月20日

青報提供票より】(20年 8月 15日事業所記)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	11 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての 1階部分	2階建ての 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

(4)利用者の概要(8月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ハピネス金岡診療所 阪和泉北第2病院 ナカイデンタルクリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームについては、すでに何度も紹介されている通り、社会福祉法人大阪福祉会の経営になるもので、主体は大型の老人福祉施設「ハピネス金岡」であり、堺市の補助事業として、平成14年4月に「みずきの里」を、平成17年12月に「さつきの里」をそれぞれ立ち上げられ、合計2ユニットが「老人福祉施設ハピネス金岡」に寄り添うように別棟として併設されている。ホームの印象としては、とにかくリビング(食堂およびコミュニケーションスペース)や廊下が大変広くかつ清潔で、それが利用者がゆったりと落ち着いて生活されている原因の一つと思われる。環境的にも周囲にはまだ田園風景が広がっており、利用者は朝の散歩を楽しんでいる。近隣住民をはじめ各学校ともよく交流しており、又ホーム側としても「高齢者おたっしや教室」を毎月開いて、本当の意味で地域にとけ込み、地域密着型を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回(平成19年7月)の外部評価は旧形式で受けられ、要改善点は無かった。新形式(地域密着性強調形式)で受けられるのは今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価についても、施設長や管理者のみならずスタッフ会議などで職員全員の意見を聞き、まとめ上げて改善点などを見出し出していた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議については、すでに2ヶ月に1度定期的に開かれている。出席メンバーもほぼ全員揃っている。地域包括支援センターからは、他ホームの事例を教えてもらったり、家族の代表からは、色々意見や要望などが出ている。ホーム側からも、グループホームの近況報告や夜間の非常災害時に対する支援など要請している。もちろんいただく貴重な意見はホームの介護サービスの質の向上への参考にしていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は結成されているが、遠慮されているせいもあり意見や要望は出ない。それより家族の来訪時、意見や苦情、不安など率直に言いやすい雰囲気作りに努めている。又、年1回無記名で家族にホームのサービスについてのアンケートを実施しており、いただく色々な要望などについては、ホームの運営の参考にしていく。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会や老人会には加入していないが、散歩時地域の住民とは顔なじみになっており、畑で収穫した作物などをよくいただく。近隣の幼稚園や小学校、中学校(職場体験)との交流もしている。又、地域住民のために毎月「高齢者おたっしや教室」を開いている。



2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念として、簡潔に「愛されるホーム、心ある介護」を掲げられているが、地域密着性を強調する表現も望まれるところである。	○	簡潔で分かりやすいが、平成18年4月の介護保険法改正で、より強く地域密着性の理念が求められており、例えば、最後に「地域との交流」なども一言付け加えるなりして、工夫していただけたらいいかであろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員や利用者および家族、お客様がよく目につくように玄関に掲示しており、職員に対してもスタッフ会議で徹底している。その上、家族や地域住民に対しては、運営推進会議の場で理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会や老人会に参加していないが、散歩時地域住民とは明るく挨拶し、畑の作物をいただいたりしている。近隣の幼稚園や小学校とも交流があり、職場体験として中学生を受入れている。地域住民のために「高齢者おたっしや教室」を毎月開くなどして交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、施設長や管理者など管理職だけでなく職員会議などを通じて職員全員で検討し、改善点を見出すよう努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、2ヶ月に1度開かれている。出席者についても、ほぼ必要なメンバーは揃っている。ホームからは近況報告をし、地域包括支援センターからは他ホームの事例、家族からは意見や要望をいただき、得られた情報や意見についてはホームの運営の参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業指導課とは連絡を取り合い、ホームの現状を報告しつつ、色々な相談ごとにもってもらっている。参考になるものについては、ホームの介護サービスの質の向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、必ず利用者の現状を報告している。その他全家族には、ホーム便り「ハピネス新聞」を毎月送付し、ホームの生活状況を紹介している。利用者の健康状態については、その都度主に電話で報告している。必要な方には、家族から現金を預かり、金銭管理を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会については、年1回開いていて色々意見や要望を聞くようにしている。又、家族の来訪時には意見や要望をはじめ何でも気軽に言っていただくような雰囲気作りを心がけている。又、年1回全家族にアンケートを実施し、無記名で色々意見や要望を記入してもらい、運営の参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	幸い職員についてはここ数年離職者が殆んど無く、職員と利用者とは完全に馴染みの関係が保たれている。離職者があっても、新職員には利用者の状態を詳しく伝え、利用者の不安を取り除く工夫はしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、法人内外での職員研修については、職務に支障をきたさないよう、職員が順次受講している。それらをレポートにまとめ全員で共有するようにしている。ストレス軽減に向けた取組みや向上心を持って働き続ける取組みについても色々工夫している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市北区のグループホーム連絡会は以前より開かれており、意見交換や情報交換を行いホーム運営上大変役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人やその家族に見学かたがたこのホームの雰囲気に馴染んでもらい、安心かつ納得して入居してもらえるよう工夫している。初回アセスメント時本人や家族から生活歴や性格、要望などできるだけ詳細に把握するようにしている。何度か面談するうちに職員と顔なじみになってもらい、不安を取り除く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が介護するというだけでなく、一緒に生活するという雰囲気作りを出すようにしている。利用者は人生の大先輩であり、洋裁、お茶の作法、雑巾の作り方、昔の生活状態や有名人・著名人の話などを教えてもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接時すなわち入居前より本人の人生歴や性格、趣味などを詳細に把握し、フェースシートを作成し職員全員で共有している。本人とのさり気ない会話の中からも希望や意向をつかむようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まずカンファレンスを開催し、本人がより良く暮らしているよう、本人の希望や家族の意向、かかりつけ医の意見などを参考にし、介護計画作成担当者のみならず、職員の意見やアイデアも取り入れて、介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは、随時行っている。カンファレンス時、利用者の日々の健康状態に少しでも変化が見られると、本人や家族その他関係者との話し合いがもたれ、現状に即したケアプランに作成し直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの多機能性を活かした支援としては、 ・利用者の状態に応じた柔軟な勤務シフト体制作り ・認知症専門医の受診支援や看護職との協働 ・早期退院に向けた支援(お見舞いや病状把握) ・身だしなみの支援や併設施設との合同レクへの参加などがある。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員納得して併設の診療所がかかりつけ医であり、常時往診や連絡が可能である。看護師も週3回見回りをしてしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの例はまだ無いが、「医療連携体制およびターミナルケア」に関する指針を作成し、比較的早くから、本人、家族、かかりつけ医、ホーム側でその都度話し合いをして、その方針を共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に関する書類は、すべて他人の目にふれないように保管している。トイレ誘導や失禁時の対応も充分配慮している。お名前を呼ぶ時も、聞き間違いされやすい苗字などは、本人や家族の了解のもと下の名前で呼んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、決めつけず、本人のリズムやペースにまかせている。ただ、長時間の昼寝や、居室でずっと1人の場合は、さりげなく声かけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に合わせた食材と調理方法があり、職員と利用者が作っている。利用者の希望も取り入れ料理内容の変更もある。食事の遅い方、食べこぼしをする方には、職員が同じものを食べながらフォローしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回であるが、時間は本人の都合に合わせて自由である。夏はシャワー浴でさっぱりと、冬は少し長めの時間をかけるなど配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を参考にし、得意とする分野を把握して、ホーム内でできる範囲で個々に役割を分担してもらっている。若い職員が、裁縫や編み物を教えてもらったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は田や畑が多く、整備された農道もあり、利用者は毎日のように散歩を楽しみ、農家の人とも会話を楽しんでいる。本人が希望すれば、その都度買物も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開放的な共有空間の先に、広い玄関があり見通しは良く、出入りには職員の目が行き届き、日中は玄関は施錠していない。必要と判断する理由が生じた場合は(徘徊、不穏など)、家族と話し合い施錠する事も有り得る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いの避難訓練の他にも、折りにふれホーム独自の訓練も実施している。緊急時は併設している全施設に警報が鳴り、避難に協力してもらえらる体制はとっている。地域の方々にも運営推進会議などを通じて、協力してもらえらるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のケース記録で、バイタルチェックとともに食事摂取量や栄養バランスを把握している。水分摂取量は、回数ではなく、本人の状態に合わせてその都度充分にとってもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間は清潔感があり、コミュニケーションスペースも充分とっており、利用者はゆったりと楽しい時間を過ごされている。玄関をはじめ各所に、利用者や職員の手作りの季節を感じさせる作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、本人手作りの大きな表札が目線の高さでかかげられてあり、間違いを防ぐ工夫がなされている。居室内は、入居前の生活にできるだけ近づけるよう、畳を入れたり、本人の大切にしていたもの、使い慣れたものを持ち込んでいる。		

2770103758